

ジャララバード北部に難民集中

送還難民の激増

昨秋、100 万人を超える難民がパキスタンから送還され、ジャララバードは大混雑に陥りました。冬の到来で送還が中断したものの、今春、間もなく再開されます。この中でPMSは自治会と結んで、地域の生存をかけて全力を投入しています。

パキスタンからの送還難民に加え、スピングル山麓方面（アチン郡、ロダト郡、エサラク郡ら）は干ばつで荒廃して居住環境も治安も悪く、多くの者がジャララバード北部へ逃れてきます。少なくともここには安定した農地があり、食べ物があり、水があり、爆破事件が少なく、贅沢を言わなければ少なからず職にありつけるからです。北部 4 郡の作業地がなければ、ジャララバードは大混乱で手がつけられない状態になっただろうと、囁かれています。

私たちの作業地が混乱を回避する防波堤になっているのは事実で、ますます重要性を増しています。至る所で、村落の人口が二倍、三倍と、爆発的に増え、国道クナール線は「バザール街道」となって雑踏があちこちに出現、ガンベリ沙漠・マルワリード用水路付近にも、3000 家族の難民コロニーが生まれ、数を増しています。国連関係によれば、帰還難民の 70%がナンガラハル州出身だそうです。

新局面へ向けた動き

今が最も支援が必要な時だと再度強調します。地元民はどこに逃げるあてもなく、この状態でも生き延びなければなりません。これを見捨てるか、多少の労苦を伴っても力を尽くすか、選択は夫々の自由ですが。治安や政情への配慮は当たり前で、時には死守すべき、道義上の局面と人間としての誇りがあります。計画は既に次の段階に入り、「PMS 20 年体制確立」に向け、ジャララバード事務所は必至の覚悟で動いております。ご協力をお願い申し上げます。

マルワリード II、冬期工事目標達成へ ガンベリ排水路は夏までに完了確実

各事業の進行

パキスタン国内で多発する爆破事件を受け、トルハム国境が閉鎖され、2 週間が過ぎました。ジャララバードは建築資材の流通が滞っていますが、事務所の機転でセメント 6000 袋を速やかに確保し、今のところ作業全体に大きな影響は出ていません。

●マルワリード II 取水堰；

仮工事完了、主幹水路 1 kmを開通、現在カチャラ村・コーティ村灌漑路の整備と、沈砂池の最後の詰めの工事施工中。今年度は諸情勢に鑑み、異例の速さで工事が進められた。春の訪れに伴って緊急となった護岸工事に集中。なるべく人海戦術を採用し、雇用機会を増やすよう配慮。

●ガンベリ主幹排水路；

1,787m中 1,630mを開通。今夏までに排水路完成をもって記念碑的な「マルワリード用水路事業完了」を祝えます。

●ガンベリ農場；

ミカンの接ぎ木数千本が 1 ヘクタールの土地で試みられ、4 年後の出荷を目指している。今冬小麦の作付けが 20 ヘクタールを超え、職員の自給を達成。ナツメヤシ 500 本はトルハム国境の閉鎖で足止めを食らっているが、開通次第移植を行う。

●ミラーン訓練所；

一階部分を終え、洪水防御壁の造成中。夏までには居住可能になると予測。これに関連した日本側で制作する「教材」も急がれる。

●JICA=PMS 共同調査；

4 月に発足予定で、事業の成果を確認し、先の展開につなげようとするものです。PMS としては、併せて水理学的調査をも行い、以後の設計を容易にしようとしています。詳しくは改めて紹介しますが、これも重要な局面の一つなので、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

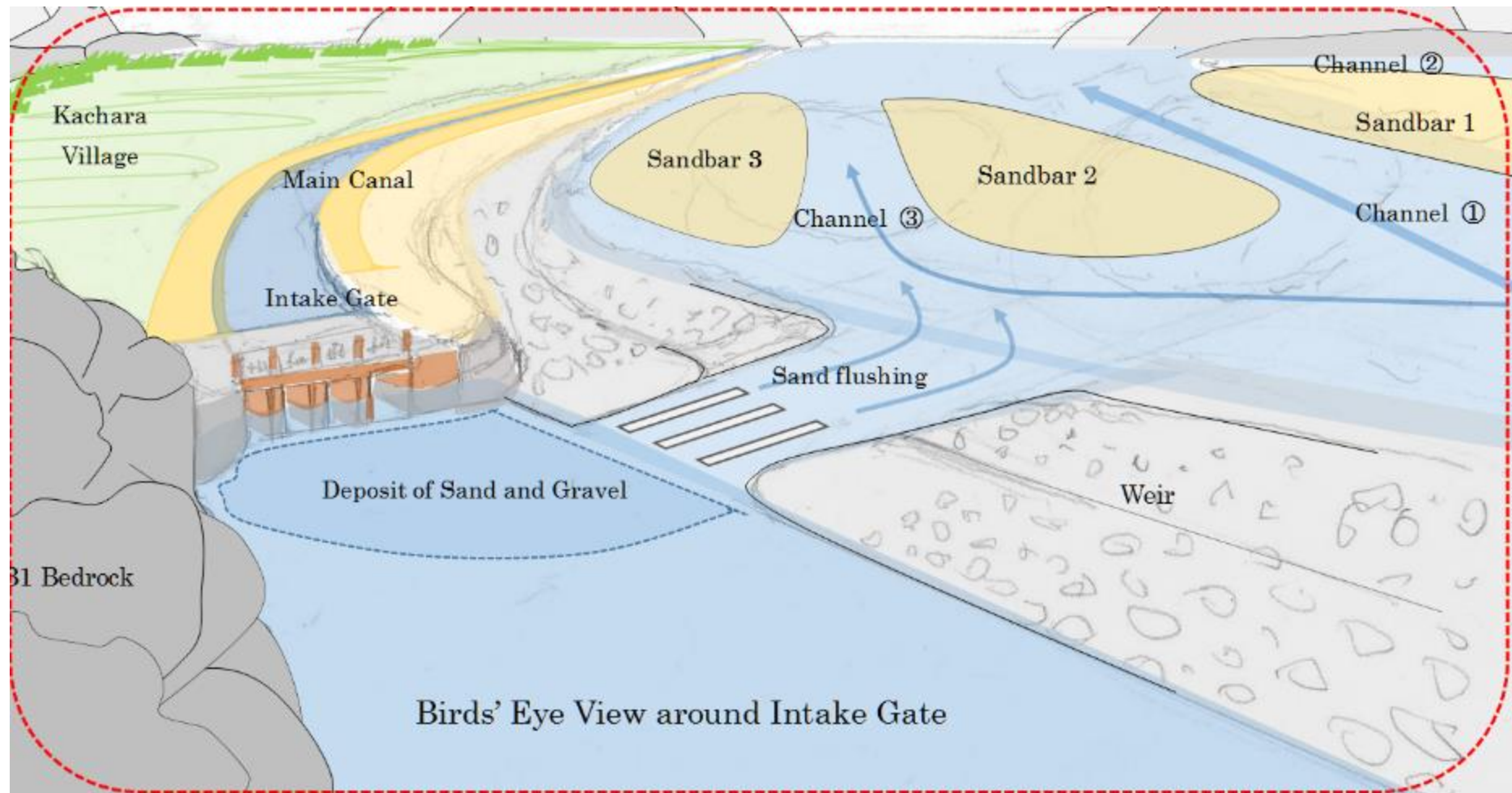
全体に PMS の力量は飛躍的に上がっており、不得手な事務作業も以前よりは遥かに整ってきています。「長期継続・20 年体制」へ向け、着々と内部改善が進められています。ご協力を切にお願い申し上げます。

平成 29 年 3 月 3 日 記

仮工事を終えたマルワリード II 堰と取水門。2017 年 2 月 25 日



鳥瞰図はとうとう直す時間はありませんでしたが、作業員や現場監督の理解を得るには十分でした。
おおよそ考え通りにはできたと思います。



上流から沈砂池側を望む。護岸は 50m ごとに水制（長さ 15～20m）を置き、洪水による洗掘を防止する。万一溢水が起きても、浅い流れが用水路を越えて、洪水流が半減、大被害に至らない。2017 年 2 月 25 日



石積み固定堰を対岸から望む。堰長を長くとり、安定して見える。2017年2月25日（ザイヌッラー職員撮影）



B1 岩盤

取水門

舟通し

土砂吐き（部分可動堰）。河の水量はやや増しているが、水位は殆ど変動がない。2017年2月26日



取水門下流側とカチャラ分水路。2017 年 2 月 26 日



カチャラ分水門。最大 $2.0 \text{ m}^3/\text{秒}$ まで供給できる。実際にはそんなに要らない。2017 年 2 月 26 日



カチャラ分水路Ⅰは沈砂池を経ないので、土砂が流入しやすい。壁を設けて堰上げ、土砂を壁のスリット状の溝から排出、かつ流入部床面を 15 cm 高くしている。原理は堰の砂利吐きに同じ。2017 年 2 月 26 日



カチャラ分水路 I は 130m 進んで既存水路へつながる。冬期の最大水量は、以前の 5 倍以上になっているので広範囲の灌漑が可能になっている。また、夏期は水量が調整でき、不測の洪水流入を免れるようになった。2017 年 2 月 26 日



主幹水路の現在。水路壁ふとん籠 2 段目が始められている。この後を柳枝工が追いかけるが、作業員の主力が下流の沈砂池方面に集中し植樹がやや遅れている。
2017 年 2 月 27 日

